

# 日本聖公会 全国青年ネットワークニュース

第34号

2010年5月25日発行

## 第5回 日韓聖公会青年セミナー 2010 長崎で開催

【日時】：2010年8月11日(水)～8月16日(月) \*事前準備会 7月18日(日)～7月19日(月)於：名古屋

【場所】：長崎 (宿泊：長崎カトリックセンター)

【テーマ】：「主の平和」

このセミナーは、東アジアの平和を念頭に、両聖公会の宣教課題を分かち合い、これを担っていく青年を育成することを目的として、位置付けられています。日韓両国の青年が集い、ともに交わり学び分かち合うなかで、青年一人ひとりがキリスト者としての平和、「主の平和」を現す器として歩みを起こすような機会にしたいとの願いから企画されています。

プログラムは、主に市内のフィールドトリップや平和に向けてのワークショップ、意見の分かち合い等です。

要項の詳細については、各教会に送付のご案内をご覧ください。全国青年ネットブログ (<http://youthnssk.exblog.jp/>)にてご確認ください。なお、参加申込みは、2010年6月7日(月)までに、各教区担当者を通して行って下さい。

(全国青年ネットワーク事務局 山田拓路)

## 九州教区 平和を考えるプログラム「長崎に立つ」に参加して クリス・ハンビー

クリス・ハンビーさんは、昨年9月に日本聖公会青年委員会が受け入れた米国聖公会の青年です。中部教区の名古屋学生青年センターで実習をしながら、全国各地でも様々な経験を積んでいます。今回はその中から、去る3月に行われた九州教区平和を考えるプログラム「長崎に立つ」に参加した感想を綴ってもらいました。



### 長崎原爆資料館

私は、これ迄にもたくさんの博物館を訪れましたが、これほど大きなショックを受けた博物館はありませんでした。資料館で展示物を目にするたびに、言葉を失い、そしてどのように反応して良いか分からなくなっていました。

子どもの頃、学校で原子爆弾の投下がどんなに残虐な行為だったかを習いました。原子爆弾が投下された直後の広島や長崎の写真を見た事、また、午前11時2分を差したまま止まっている時計の話聞いた事を、今思い起こしています。これまでアメリカで読んだり、聞いたりした「時計」を、実際に長崎に来て、この目で見る事ができるとは思っていませんでした。

この時計は、原子爆弾が投下された、まさにその「瞬間」を私たちに告発するものです。同時に、決して二度と同じ過ちを犯してはならない、そしてこの事を決して忘れてはならないと、私たちに訴えています。

アメリカの子どもや日本の子どもが、「原子爆弾投下の理由」についてどのように教えられようと、その瞬間で止まったままの時計は、「原子爆弾の投下は、消す事のできない事実として人類史上、永久に残るのだ」と、私たちに訴え続けています。

### 広瀬さんの証言聞く会 ～広瀬さんとの出会い～

私は、長崎原爆資料館で大きな衝撃を受けましたが、お二人の生存者から聞いた話は、それをはるかに上回るものでした。

現在、広瀬さんは80歳になりますが、広瀬さんの父親が、原子爆弾が投下されて2ヶ月後に、放射能による合併症によって命を奪われたと話してくれました。この時に語った彼の言葉が、いまだに私の心に残っています。

当時15歳の、普通の若者だった広瀬さんの人生が、第二次世界大戦中の30秒間のできごとによって、

(次ページに続く)

全く別のものに変えられてしまったのです。広瀬さんは、長崎に原子爆弾を投下した飛行機の写真を、私たち全員が見えるよう、頭上に掲げて見せてくれました。彼は、例え日本国土に原子爆弾が投下され続けても、日本は必ず戦争に勝つのだと、聞かされていたそうです。

1945年8月9日の朝、広瀬さんは学徒動員の任務を手伝っていました。その頃、連合軍は日本各地で空襲爆撃を繰り返し、あちこちで空襲警報が発令されていました。

その朝、広瀬さんのいる地域にも空襲警報が鳴っていましたが、広瀬さんはそれに気付かずにいました。その時、空に白い閃光が走ったのを見ましたが、その瞬間何が起こったのか、広瀬さんには全く理解できなかったという事です。突然の大爆音、ついで閃光が走り、全てのものが焼き尽くされ、溶かされました。この瞬間に、これ迄培ってきた生活が一瞬にして破壊され、これまでのような日常を歴史に刻む事ができなくなったのです。

広瀬さんの人生は、戦争によって15歳で一変させられましたが、私の人生は、長崎での経験と広瀬さんの証言によって、現在の24歳で、一変させられました。広瀬さんは、平和の実現のために、そして、その実現のためには、人々がより深く理解し合う事が大切であると訴え続けています。私は、それぞれの人の幸福と平和な生活を実現するためには、良い人間関係を築く事が不可欠だと実感しました。

この証言を聞く会で、私は、私に対する質問に答えながら、自分自身の考えをまとめていました。その時、ここに、たった一人であるアメリカ人にみんなの目が向けられました。私に質問や意見があればとの配慮からでした。

私は、アメリカ人がした事に対して、大変申し訳なく思っていること、しかし、私が生まれる40年前に起こった事に対して、何もできない事を実感していると、率直に伝えました。この時、広瀬さんは通訳を介さずに英語でこう答えてくれました。「私には、あなたの感じている罪悪感が理解できます。日本が韓国や中国にした事に、私も同じように感じていますから。」

## 隔たりを越えて

広瀬さんと私の間には、世代、文化、国といった大きな隔たりがありますが、少なからず、お互いに接点や関係を持っています。

私たちが今築いている、言葉や文化、そして生まれ育った背景を超えた日々の結びつきは、今後意味のあるものになり、お互いに影響し合うものになると思います。また、この度の出会いは、お互いの絆を強めてくれるものと思います。

私が、ここ日本にいること、そして広瀬さんとの出会いは、私に世界的な視野を与えてくれました。また、これからも持ち続けるべき絆、平和と愛のうちに更に強め合っていくべき絆も、同時に与えてくれました。

## おわりに

最初から最後まで、とてもたくさんの人々に暖かく迎えて頂きました。また、希世子さんには通訳として、とてもお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。帰国まで、4ヶ月と少しの時間しか残されていませんが、アメリカに帰っても、この長崎での暖かい人々との出会い、そして貴重な体験を忘れずに、常に平和について考え、活動し続けていきたいと思っています。



円になって分かち合いをする参加者たち

## 九州教区 教会キャラバンに参加して

福岡聖パウロ教会 佐藤 群

1月30日31日に行われた教会キャラバンに参加し、熊本聖三一教会を訪問してきました。

教会キャラバンは、教区内の教会を訪問し司祭の話を書くこと等を通して聖職を志す人を掘り起こす、という目的があるのだそうです。

ですが私は特にそういう事を考えておらず、単純に「面白そう！行ってみたい！」という軽い気持ちでの参加でした。

夕方、熊本に到着し開会のお祈りと食事の準備をし、夕食後に中村司祭のお話を聴くことができました。生い立ちや召命のきっかけ、神学校時代のお話や司祭となられてからのことなど、とても興味深くあっという間の2時間でした。

中でも牧師の仕事について「福音を伝える」事をお話くださったのが印象に残っています。「信仰は自分の持ち物ではない。これも賜物であり、霊によって満たされている」との言葉には特にハッとさせられました。自分の信仰心の浅さや弱さを気にしコンプレックスに感じることもあった私にはこれ以上になく心に沁みるお言葉でした。

先生のお話以外にも鹿児島復活教会、久留米教会から参加した方々との交流や、先生の華やかなヘラさばきによるとても美味しいお好み焼きを堪能できたことなども楽しい思い出となりました。

また、翌日の礼拝後に、楽しい交わりのひと時を作ってくくださった熊本聖三一教会の皆さんの温かさや笑顔にも感謝の思いでいっぱいです。

一泊二日の短い期間ではありましたが、大変素晴らしい学びの時を持つことができ本当に良かったです。

また機会があればぜひ参加したいと思っています。

### リレートーク 平和のかたち ③

今回は、前回筆者の井田桃子さんからの紹介で、中部教区の竹内さんを書いていただきました。

数年前、実家のある長野県から今住んでいる島根県に引っ越した。当初は友達など当然いない。さらに気候、文化、言葉なども違うためなれない日々が続いた。今では友達も出来て安心できる日々が続いているが、当時は孤独、恐怖、焦燥感で夜も眠れなかった。しかし、次第につながりあってくれた友達、助けてくれる友達がたくさん出来た。まわりの人の助けによって不安は解消された。

だれでも、まわりとつながっていない時は不安ではないだろうか。仮に孤独のままであれば自分はどくなっていたか分からない。今、世間や社会では事件、紛争、混乱などが起きている。それらはみな孤独、恐怖、焦燥感から助けを求める声ではないだろうか。逆に言うと、私達がつながっていくことで孤独、恐怖、焦燥感から救い出せて、最終的に争いはなくなるのではないだろうか。

様々な諸活動は私達にとって大変ハードルが高い。しかし、つながりあっていくことは誰でもできる。身近な人でもつながっていくことが世界の平和になると信じている。

中部教区 岡谷聖バルナバ教会 竹内冬紀

## 京都教区

### テゼ共同体での経験を生かし、「青年のためのシェアリングの集い：ほとり」開催

ここ数年、京都教区の青年がテゼ共同体の集いに参加している。私も昨年フランスのテゼ共同体に青年と共に参加した。テゼ共同体の活動は主に2つある。一つは週単位で行なわれるフランス・テゼ村での祈り。もう一つは年一回年末年始に行なわれるヨーロッパ大会。こちらは各地を巡り、一回の大会に8万人規模の若者が参加する。

そんなテゼ共同体の活動に参加した若者たちが、テゼ共同体で大切にされている「分かち合う」ということを地元に戻って、行なって行きたいと、今年に入って活動している。下鴨基督教会の黒田司祭のサポートのもと、4月29日（木・祝日）には第二回目を開催。

中心になって活動しておられるのは、山本さん（京都聖マリア教会）と楠本さん（下鴨キリスト教会）だ。世界のエキュメニカル青年活動は、量質共に充実している。私たちが学ぶべきところは非常に大きい。私たちが生活に根ざした信仰生活を行なうために、また社会の中でキリスト者としての使命を生きるために、テゼ共同体の源泉に触れていきたい。

この夏、エキュメニカル活動、また青年活動としても知られているアイオナ共同体のプログラムに三木司祭と私が参加する。その考え方、方法、共同体を作り出す実践から、青年活動への大きな示唆が与えられることと楽しみにしている。そのような行動へと促されたのはひとえに、青年たちのエネルギーな動きからだ。出かけ、学び、持ち帰り、生きる。青年たちのその様な動きから学び、そんな循環の中で主の共同体を意識していきたい。

（京都教区青年活動窓口：司祭 小林 聡）

### 今後のプログラムについて・・・

- 6月 7日（月）～11日（金） **日本聖公会第2回韓国スタディ・ツアー** 各地域での多様な社会宣教の現場から学ぶ
- 6月 18日（金）～21日（月） **2010年沖縄週間 / 沖縄の旅** 命（ぬち）どう宝（たから）～共に、キリストを生きる～
- 7月 28日（火）～8月 4日（火） **第3回「多民族・多文化共生キリスト者青年」現場研修プログラム**  
（会場：北九州→釜山、ソウルなど）
- 8月 5日（木）～ 6日（金） **「広島平和礼拝 2010」**  
テーマ：ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ。  
聖句：平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。（マタイ 5:9）  
申込締切：7月11日（日）  
\*申込方法等、詳細は「広島復活教会ホームページ」をご覧ください。
- 8月 13日（木）～18日（火） **第5回 日韓聖公会青年セミナー 2010 ～主の平和～**
- 8月 20日（金）～29日（日） **フィリピンスタディーツアー**（名古屋学生青年センター／フィリピン情報センター・ナゴヤ主催）  
マニラ、セブ島、ボホール島等を訪問し、日本のODAの在り方について考えます。
- 8月 27日（金）～30日（月） **沖縄スタディーツアー**（名古屋学生青年センター／中部教区沖縄プロジェクト主催）  
米軍基地・戦跡めぐり、沖縄の歴史・文化についての学びなど。

\*プログラムの詳細及び最新情報は、青年ネットブログ（<http://youthnssk.exblog.jp/>）をご覧ください！

★「全国青年ネットワークメンバーリストへの登録は、全国青年ネット HP から。（<http://www.nskk.org/province/youth/>）

## 新・日本聖公会青年プログラム参加助成制度をご利用下さい！

◆青年プログラム参加助成制度とは・・・

この助成制度は、日本聖公会の青年たちが、様々な研修・プログラムに参加し、その経験を日本聖公会、とりわけ青年活動に生かすことを目的とし、参加に係る費用を補助するものです。日本聖公会青年委員会が運営し、各教区に設置された「青年担当者」が窓口となります。

発行 **日本聖公会全国青年ネットワーク事務局**

名古屋市昭和区宮東町 260

tel 052-781-0165 fax 052-781-4334

e-mail [youth.po@nskk.org](mailto:youth.po@nskk.org)

[www.nskk.org/province/youth/](http://www.nskk.org/province/youth/)